

2023年3月29日

談話

## 劣化ウラン弾の供与と戦術核兵器の配備に抗議する

日本原水爆被害者団体協議会  
事務局長 木戸季市

ウクライナの NATO 諸国への武器供与の要請に対し、イギリス国防省は3月20日、主力戦車「チャレンジャー2」に搭載する弾薬の一部に劣化ウラン弾を供与すると表明しました。

それに対し21日、プーチン大統領は「西側はすでに核を備えた兵器を使い始めている」として、「対応する必要がある」と非難しました。そしてウクライナの隣国でロシアの同盟国であるベラルーシのルカシェンコ大統領と共に、戦術核を通常兵器の延長として配備することを発表しました。

これらの行為に被爆者は強く抗議します。

劣化ウラン弾はイラク戦争でも使用され、目標命中時に飛散する放射性物質により様々な人体への被害、障害児の出生、環境汚染が明らかになっている爆弾です。実戦への使用はやめるべきです。

ロシアによるベラルーシへの戦術核兵器は、米国が NATO 諸国に配備してきたことを含め、核使用の可能性を高め、世界を核戦争の危機に追い込み、人類の破滅をもたらす誤った戦術に他なりません。

これまで人類が、世界が築いてきたすべてを無くし、その先に何を求めようとしているのですか。広島・長崎の被爆者の体験は、これから起こるかもしれない世界の終りの、予告編に過ぎなかったのでしょうか。

私たち被爆者は長引く戦闘の一刻も早い終結を願います。

それには当事国とその支援国の対話による努力こそが、終結へのなすべき平和的な戦術です。

核戦争に勝者はいません。戦争に勝者はいません。